

## 学校経営推進費 評価報告書（2年め）

### 1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立寝屋川高等学校 全日制の課程・定時制の課程
取り組む課題	グローバル人材の育成
評価指標	1 全定相互協力の行事の実現 2 「いのちのメッセージ展」等学校内外に発信するイベントの実現 3 学校教育自己診断の生徒の「命や人権」にかかわる項目の肯定度向上 4 (全) 学校教育自己診断の「自分の考えをまとめ発表」の項目の肯定率向上 5 (定) 中途退学率の減少
計画名	寝屋川高校は一つ「いのち・きづなプロジェクト」 ～全日制定時制をつなぎ、そして地域から世界に発信する寝屋川高校～

### 2. 事業目標及び本年度の取り組み

<b>学校経営計画の 中期的目標</b>	<p>【全日制】</p> <p>2 能動的に学ぶ姿勢を身につける～チャレンジ精神を持って進路を切り拓く実践的な態度を育成する</p> <p>(1) 新たな時代に対応する3年間のキャリア教育計画・進路指導の改善・進路ガイダンス機能の向上に取り組む</p> <p>(2) 生徒主体のHR活動や行事の企画運営や生徒会活動・部活動の充実を進め、自立心や主体的に行動する力を養う</p> <p>(3) 人権教育や総合的な探求の時間等の取り組みを充実させ、他人を思いやる豊かな心や人権尊重の精神や国際感覚の育成を図る</p> <p>(4) 生徒のコミュニケーション能力（文章や情報を読み解き対話する力）を向上させる取り組みを充実させる</p> <p>(5) 社会貢献やボランティア活動、地域との連携、各種コンテストなどへの積極的参加の推奨</p> <p>(6) 文化的・芸術的活動や読書活動の推進</p> <p>※ 生徒向け学校教育自己診断における「命の大切さ、人権を学ぶ」の肯定率(R1 89.9%)をR4年度には92%にする。(H29/76%・H30/87%・R1/89.9%)</p> <p>※ 「自分の考えをまとめたり発表したりする機会」の肯定率(R1 84.7%)を令和4年度には92%にする。(H29/84%・H30/82%・R1/84.7%)</p> <p>【定時制】</p> <p>2 人に認められ人と理解しあえる喜びを伝える</p> <p>(1) 命の大切さ・人権意識・善悪の判断など、人間としての基本的な倫理観や規範意識を育てる。</p> <p>ア 生徒指導時のみならず、教科の学習およびHR・総合的な学習の時間、行事等も含めた教育活動全体を通して指導する。</p> <p>※ 生徒向け学校教育自己診断における「命、社会のルール」の肯定率(R1年度75%)をR4年度には85%にする。</p>
<b>事業目標</b>	<p>(食堂フロアを活用した)「絆(きづな)空間」の整備</p> <p>～展示・プレゼン・ポスターセッション等の形で、集い発信できる空間の創設～</p> <p>本校は全日制・定時制2課程を有する学校であるが、生徒の活動という観点から見れば、まるで異空間であるかのような状況がある。同じ空間で学ぶ高校生としてお互いを認め合いその存在を十分理解できる取り組みを進め、身近な存在をしっかりと理解したうえで、全定一体</p>

	<p>で時には課程ごとに地域へそしてグローバルに様々なメッセージを「絆(きずな)空間」を中心に発信していく。まずは寝屋川市が特に大切にしている「いのち」をテーマとした発信をする。</p> <p>それらの取組みにより、他者を思いやりいのちを大切にすることを育むとともに、コミュニケーション能力を高め他者とつながる「生きる力」を育成し、さまざまな世界へ打って出る気概を育てる。</p>
<b>整備した設備・物品</b>	<p>寝屋川高校「絆(きずな)空間」の整備(通用門直近の食堂フロアを整備)  遮光ロールスクリーン(1)、台形テーブル(24)、スタックチェア(66)、ホワイトボード(4)、大型冷風扇(3)、有孔ボード(1)</p>
<b>取組みの 主担・実施者</b>	<p>主担 「いのちの絆 PT(全・定)」全定とも(教頭・首席・生徒会主担・生徒指導部・人権推進委員長・教職員有志)と生徒会役員  実施者については全教職員・全校生徒(全・定)</p>
<b>本年度の 取組内容</b>	<p>全日制と定時制の生徒会で交流を実施。それぞれの生徒会から活動報告を実施した。プレゼンテーションできるように食堂内のレイアウトを変更した。その際に整備したテーブルはレイアウトを変更するには非常に使い勝手がよかった。また、ロールスクリーンは映像を投射するのに役立った。</p> <p>定時制の文化祭の展示用の部屋として食堂を活用した。全日制の生徒が招待され、展示物を見学するなど交流を行った。</p>
<b>成果の検証方法 と評価指標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 生徒主導で学園祭相互参加の実施、全定生徒サミットの実現</li> <li>② 「いのちのメッセージ展」開催</li> <li>③ 学校教育自己診断の「入学(学校)満足度」「いのちや人権にかかわる項目」の肯定率前年度3%向上</li> <li>④ (全)学校教育自己診断の項目「自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある」の前年度比肯定率3%向上</li> <li>⑤ (定)中途退学率前年度比3%減少させる</li> </ol>
<b>自己評価</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① コロナ禍において交流の実施は大変難しかったが、学園祭や明月祭(全定それぞれの文化祭)、文化発表会において共同制作物展示を行った……………(◎)</li> <li>② コロナ禍等の事情により、実施しなかった……………(ー)</li> <li>③ 学校教育自己診断「入学(学校)満足度」89.5%→92.0%、「いのちや人権にかかわる項目」89.9%→90.7% 3%……………(○)</li> <li>④ (全)学校教育自己診断の項目「自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある」84.7%→84.9%……………(△)</li> <li>⑤ (定)中途退学率 5.3%→0.8%……………(◎)</li> </ol>
<b>次年度に向けて</b>	<p>今年度はコロナ禍で取組みの実施が困難な場面が多かった。来年度も全定それぞれの課程において生徒会役員を中心に相互理解と交流の意識を醸成し、「いのちの尊さ」をテーマに「いのちの絆プロジェクト」が高校生主体の活動となるよう、様々な面からのアプローチを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 全定合同生徒会活動の定例化</li> <li>2 学校行事の協働業務の模索</li> <li>3 寝屋川市との共同業務の模索</li> </ol> <p>これらの取組みを通じて他者を思いやり、いのちを大切にすることを育むとともに、コミュニケーション能力を高め、他者とつながる「生きる力」を育成していく。</p>